

# まちづくり市民アンケート

## 報告書

(公表版)

伊那市

企画部 企画政策課



## 目 次

### I 市民アンケート調査結果

1 調査概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査方法等	1
(3) 配布数及び回収結果	1
(4) 本調査報告書の留意点	1
2 回答者の属性	2
(1) 性別	2
(2) 年齢	2
(3) 居住地	3
(4) 同居している家族の構成	3
(5) 職業	4
(6) 居住年数	4
3 伊那市の市政について	5
(1) 市政全体の満足度	5
(2) 基本目標ごとの満足度	7
(3) 基本目標ごとの重要性	11
4 各施策の評価について	15
(1) 満足度	16
(2) 重要度	20
(3) 分布図による分析	24

### II 中学生アンケート調査結果

1 調査概要	26
(1) 調査目的	26
(2) 調査方法等	26
(3) 配布数及び回収結果	26
(4) 本調査報告書の留意点	26
2 回答者の属性	27
(1) 性別	27
(2) 学校	27
3 愛着度について	28
4 定住意向について	29
5 伊那市の自慢できるものについて	30
6 今後のまちづくりの方向性について	31

## I 市民アンケート調査結果

# 1 調査概要

## (1) 調査目的

次期総合計画を策定するにあたり、本市の情勢や市民の意識を調査するために、16歳以上の市民を対象に、まちづくりの満足度・重要度や伊那市の将来像のイメージ等を把握し、計画づくりの基礎資料を得るために実施したものです。

## (2) 調査方法等

アンケートの対象者	伊那市に在住する16歳以上の者
人数	2,000人
抽出母体	住民基本台帳（令和4年10月6日現在）
抽出法	無作為抽出
調査方法	郵送による配布・回収
調査時期	令和4年10月17日～11月4日

## (3) 配布数及び回収結果

配布数	2,000
有効回答数	763
有効回答率	38.2%

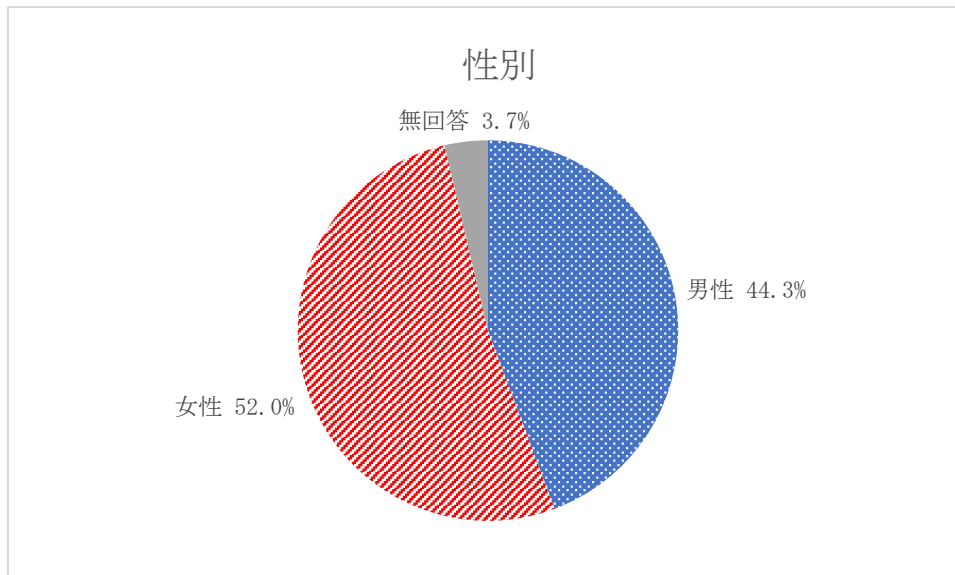
## (4) 本調査報告書の留意点

- ①比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのため、百分率の合計が100%にならないことがあります。
- ②質問文の中に、複数回答が可能な質問がありますが、その場合、回答の合計は調査数を上回ることがあります。
- ③図中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合があります。

## 2 回答者の属性

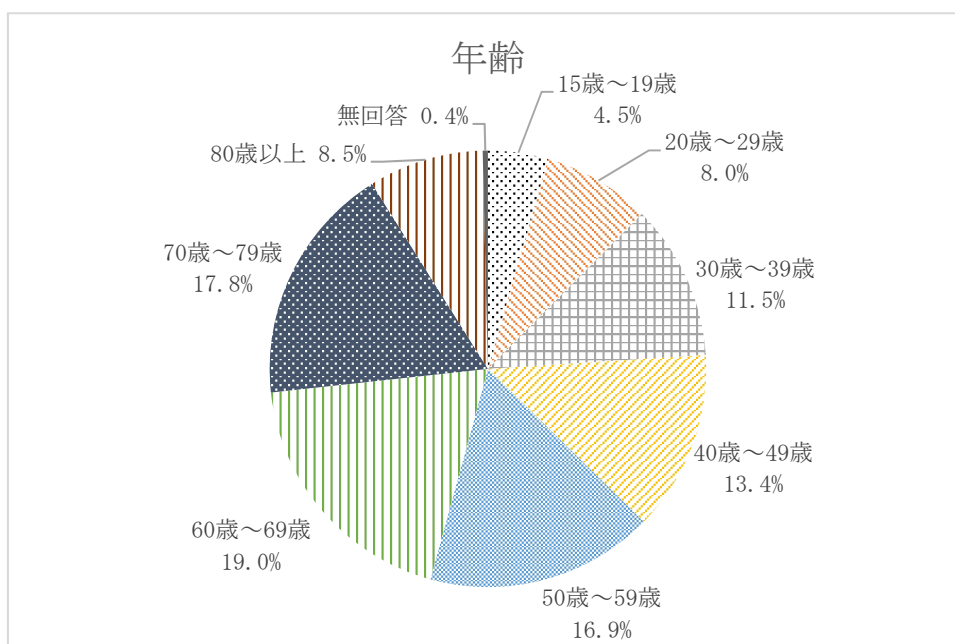
### (1) 性別

回答者の性別は、「男性」が 44.3%、「女性」が 52.0%となっています。



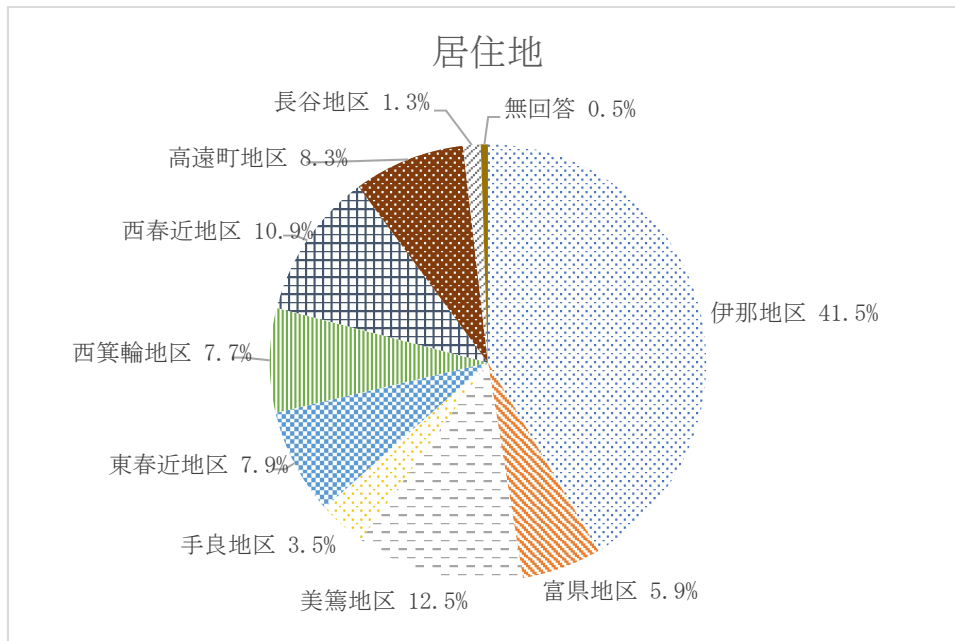
### (2) 年齢

年齢は、「60歳～69歳」が 19.0%で最も多く、以下「70代」(17.8%)、「50代」(16.9%)と50歳以上の回答が6割以上を占めています。



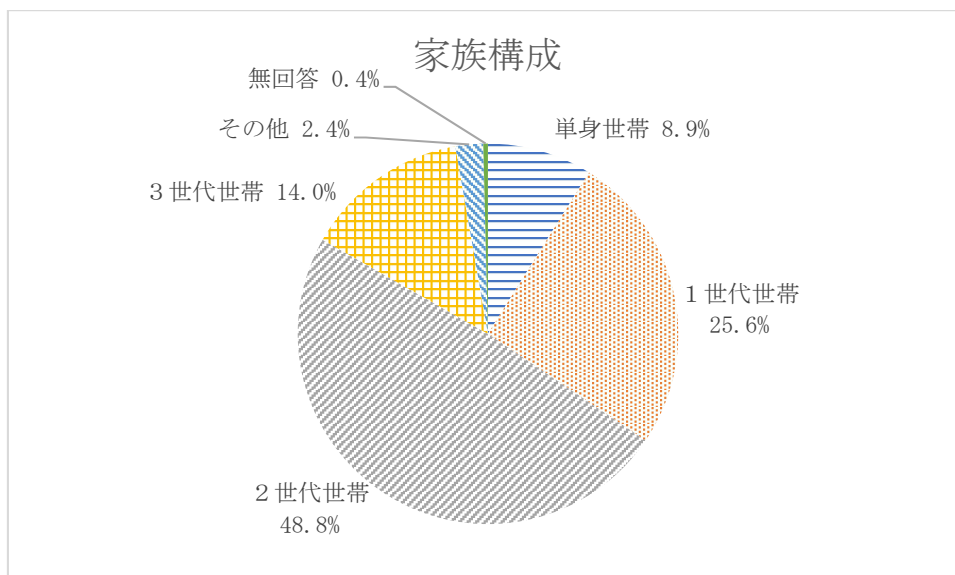
### (3) 居住地

居住地は、「伊那地区」が 41.5%で最も多く、以下「美簗地区」(12.5%)、「西春近地区」(10.9%)、「高遠町地区」(8.3%)、「東春近地区」(7.9%)、「西箕輪地区」(7.7%)となっています。



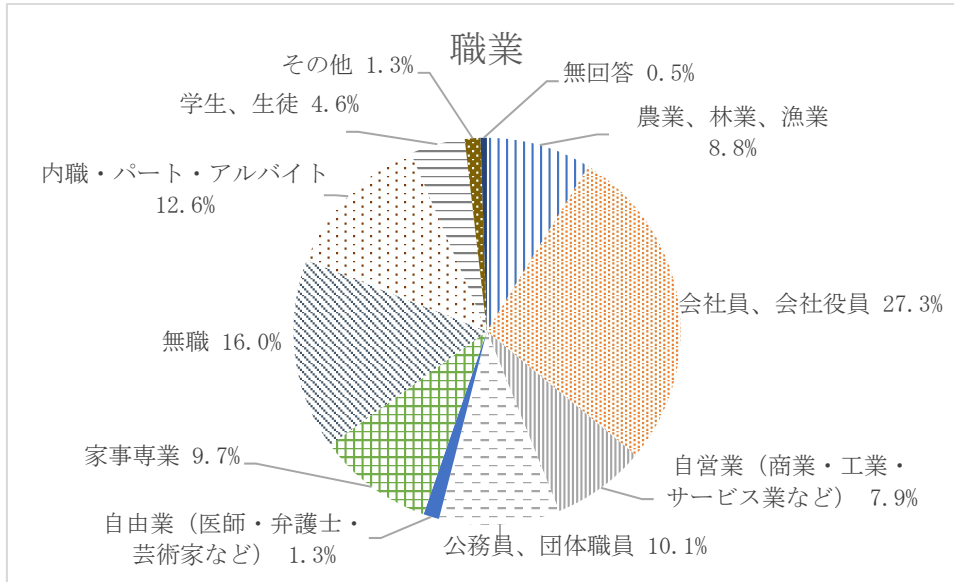
### (4) 同居している家族の構成

同居家族の構成は、2世代世帯（親と子）が 48.8%で最も多くなっています。



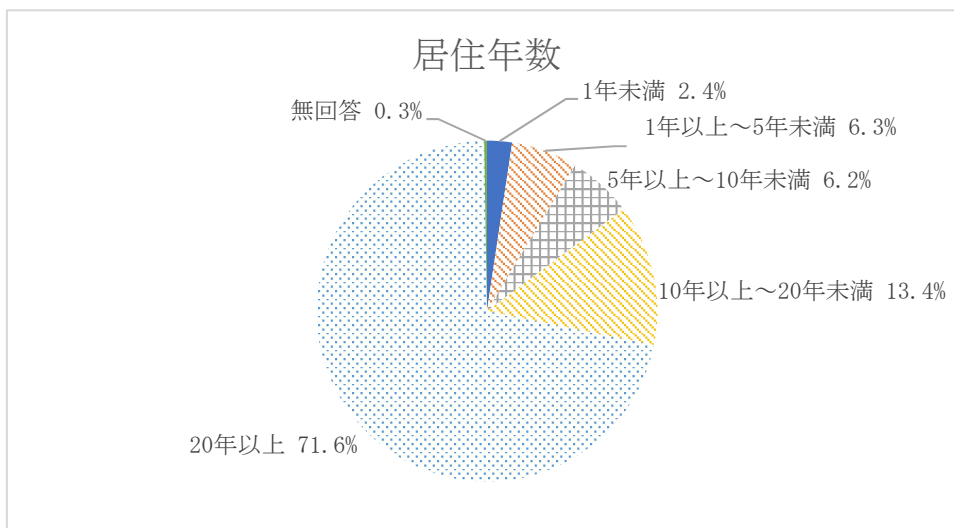
(5) 職業

職業は、「会社員・会社役員」が 27.3%で最も多く、続いて「無職」(16.0%)、「内職・パート・アルバイト」(12.6%)、「公務員、団体職員」(10.1%)の割合が多くなっています。



(6) 居住年数

居住年数は、「20年以上」が 71.6%で最も多く、以下「10年以上 20年未満」(13.4%)、「1年以上 5年未満」(6.3%)、「5年以上 10年未満」(6.2%)となっています。





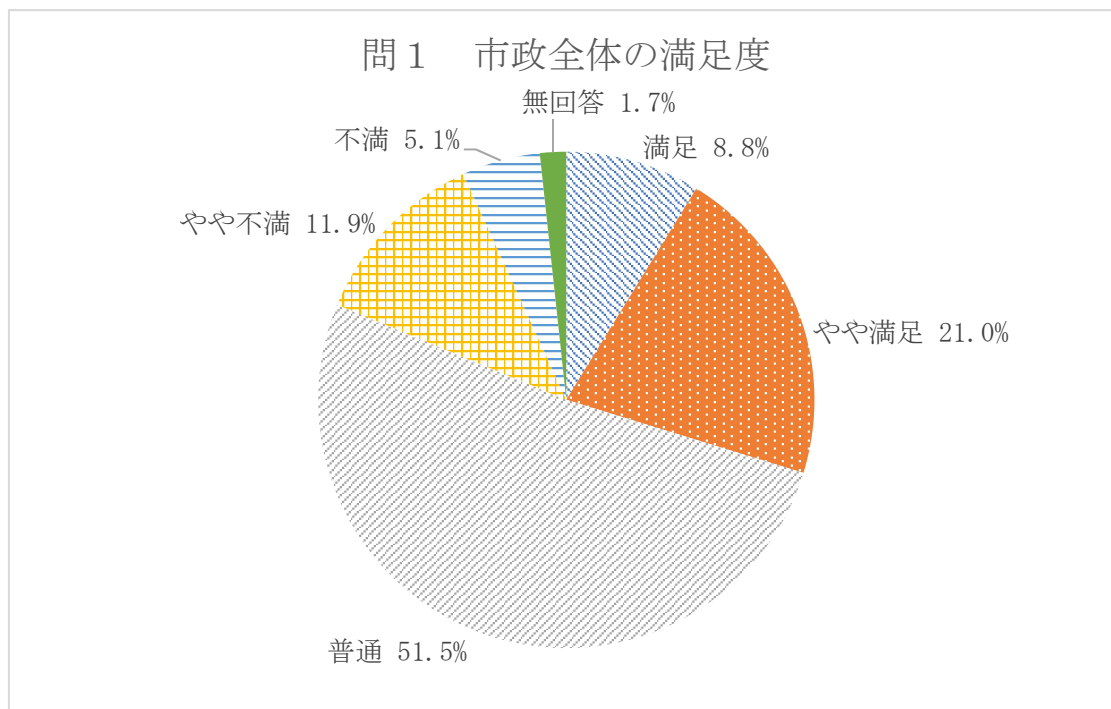
### 3 伊那市の市政について

問1 現在の伊那市の市政全般について、満足度はどれくらいですか？  
あなたの考えに近いものを1つ選び、○をつけてください。  
そのように思う理由で特にあげるべきことがあれば書いてください。

#### 【全体の傾向】

#### ●全体の約30%が“満足”と回答

市政全般の満足度をたずねたところ、「満足」(8.8%)と「やや満足」(21.0%)を合わせた人は29.8%となっています。一方、「不満」(5.1%)と「やや不満」(11.9%)の合計は17.0%で、“満足している”人の割合を下回っています。

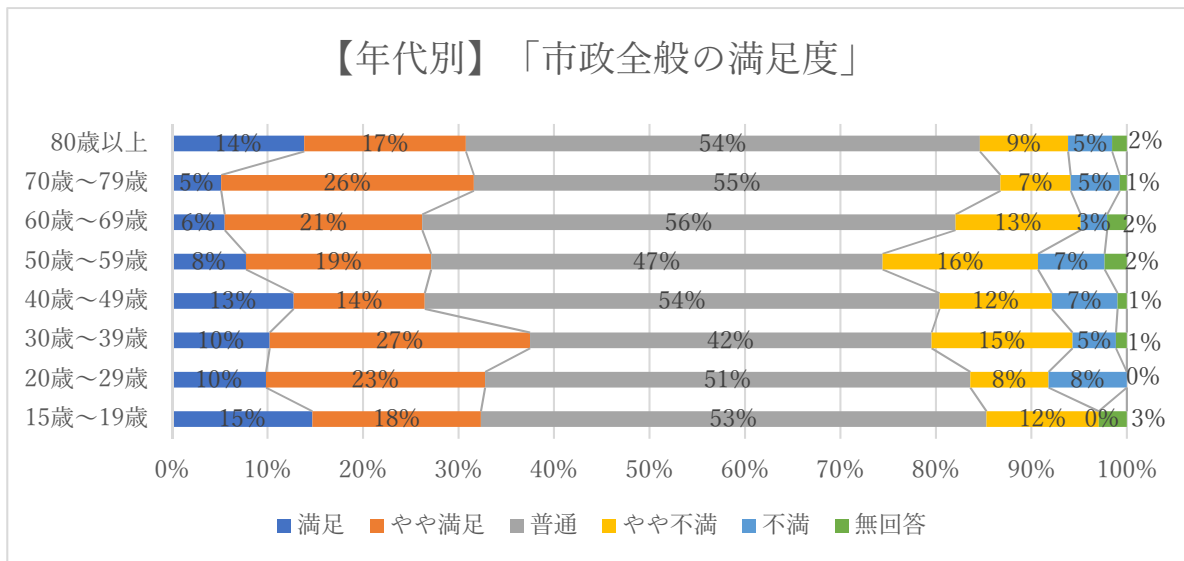


## 【年代別の傾向】

### ●30代の“満足”の割合が高く、50代の“不満”の割合が高い

年齢別にみると、“満足”の割合は30代が最も高く、続いて20代が高くなっています。一方、“不満”の割合は50代が最も高く、30代が続きます。

満足度の高い理由として、子育てに関する施策を評価する意見が多くあげられています。一方、満足度の低い理由としては、様々な分野の施策について不十分とする意見が見受けられます。



問2 伊那市では、「未来を織りなす 創造と循環のまち 伊那市」を将来像に掲げ、その実現のために6つの基本目標を定め、各種施策に取り組んでいます。

この伊那市の基本目標について、それぞれの「現状の満足度」と「今後の重要度」について、あなたの考えに近いものをそれぞれ1つ選び、番号に○をつけてください。

### (1)満足度

#### 【全体の傾向】

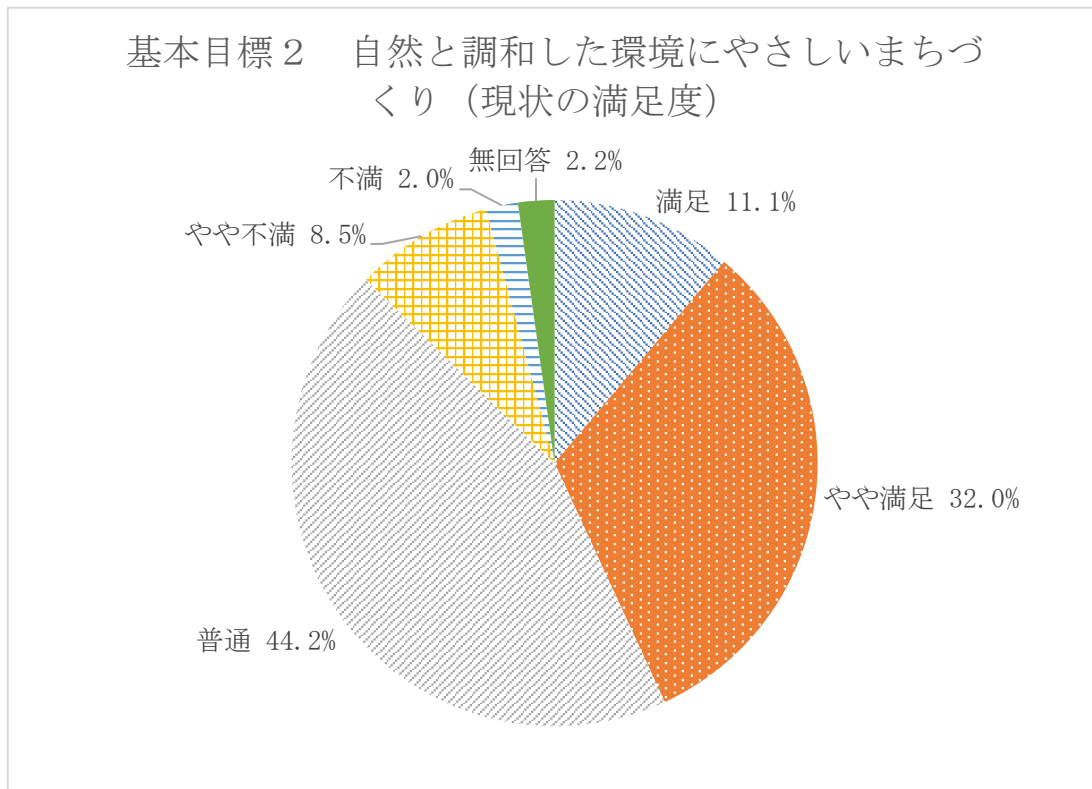
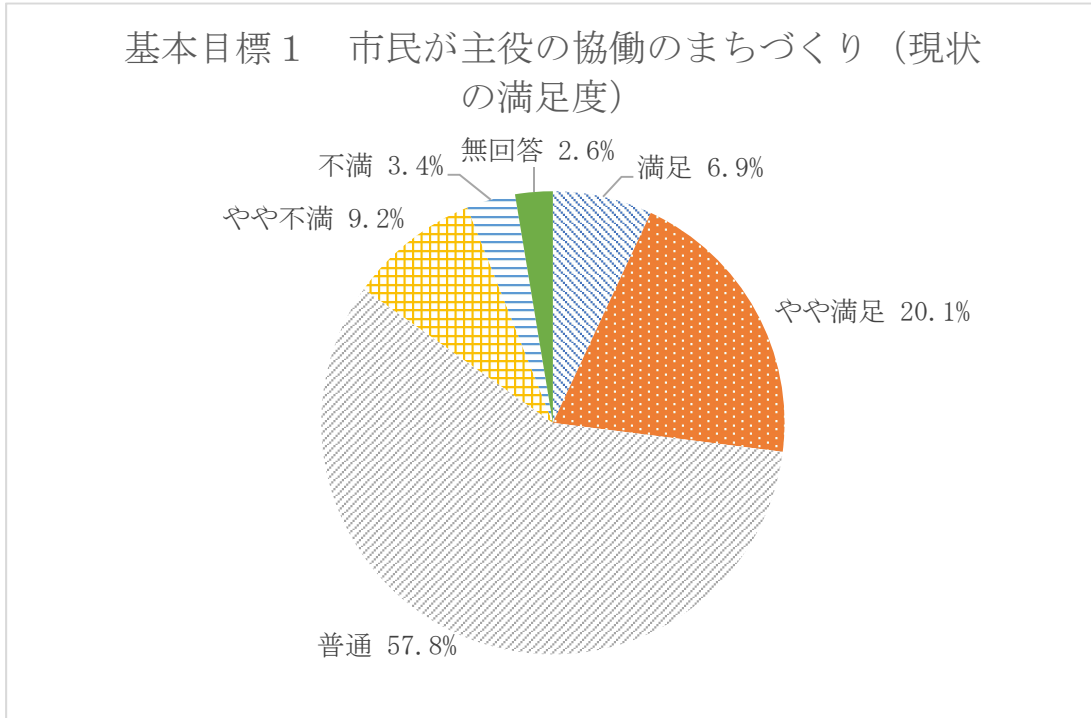
●“満足している”が最も多い目標は「基本目標2 自然と調和した環境にやさしいまちづくり」

●“満足していない”が最も多い項目は「基本目標4 地域の個性と魅力が輝くにぎわいと活力のあるまちづくり」

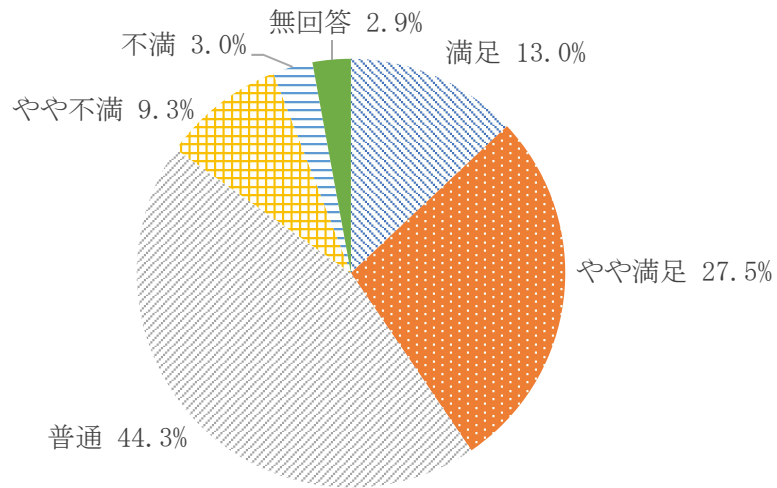
総合計画で定めている6つの基本目標の状況を「満足度」としてたずねたところ、「満足」、「やや満足」を合計した“満足している”の割合は、「基本目標2 自然と調和した環境にやさしいまちづくり」が43.1%で最も高く、以下「基本目標3 子育てを支え、だれもが健康で安心して暮らせるまちづくり」(40.5%)、「基本目標6 生活基盤の充実した安全で快適に暮らせるまちづくり」(40.3%)が上位となっています。

一方、「不満」、「やや不満」を合計した“満足していない”の割合は、「基本目標4 地域の個性と魅力が輝くにぎわいと活力のあるまちづくり」が14.7%で最も高く、以下「基本目標6 生活基盤の充実した安全で快適に暮らせるまちづくり」(13.1%)、「基本目標1 市民が主役の協働のまちづくり」(12.6%)、が上位となっています。

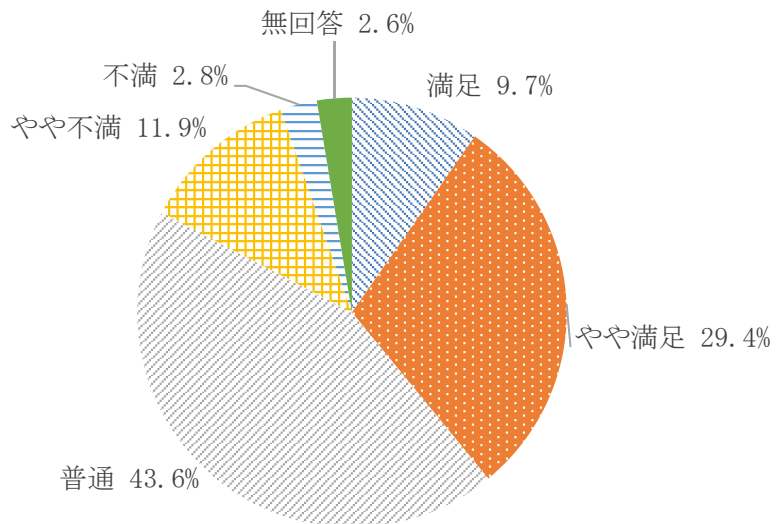
【現状の満足度：基本目標別】



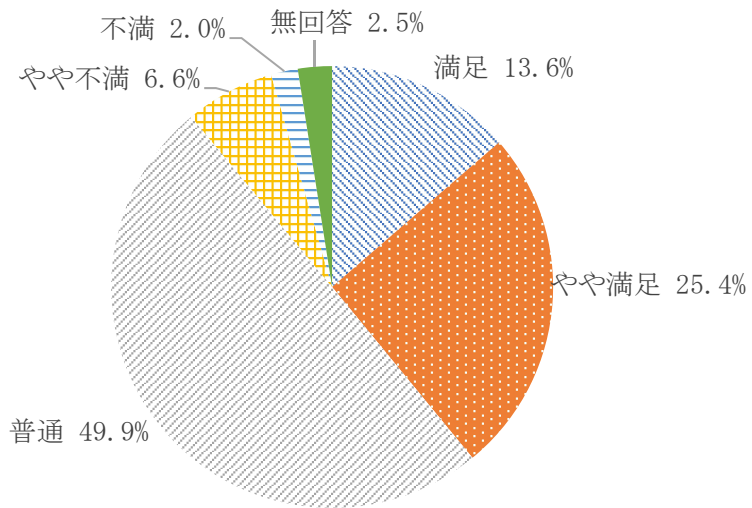
基本目標3 子育てを支援、だれもが健康で安心して暮らせるまちづくり（現状の満足度）



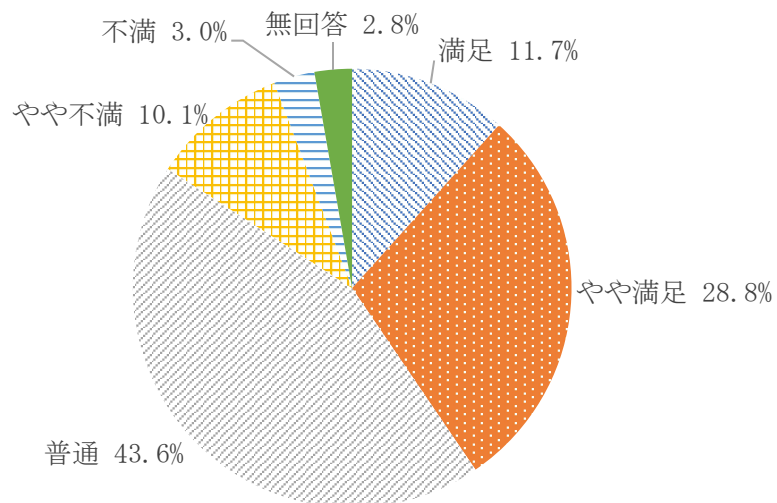
基本目標4 地域の個性と魅力が輝くにぎわいと活力のあるまちづくり（現状の満足度）



基本目標 5 歴史と文化を未来へつなぐ、心豊かな人を育むまちづくり（現状の満足度）



基本目標 6 生活基盤の充実した安全で快適に暮らせるまちづくり（現状の満足度）



## (2)重要度

### 【全体の傾向】

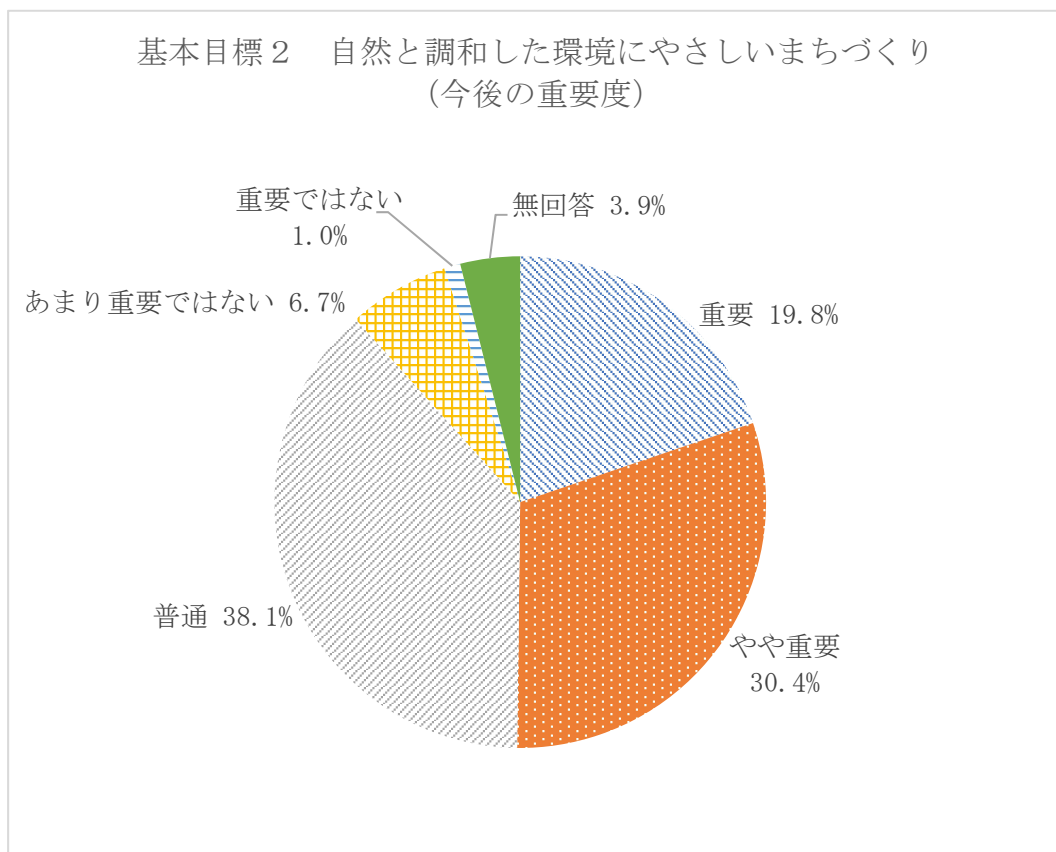
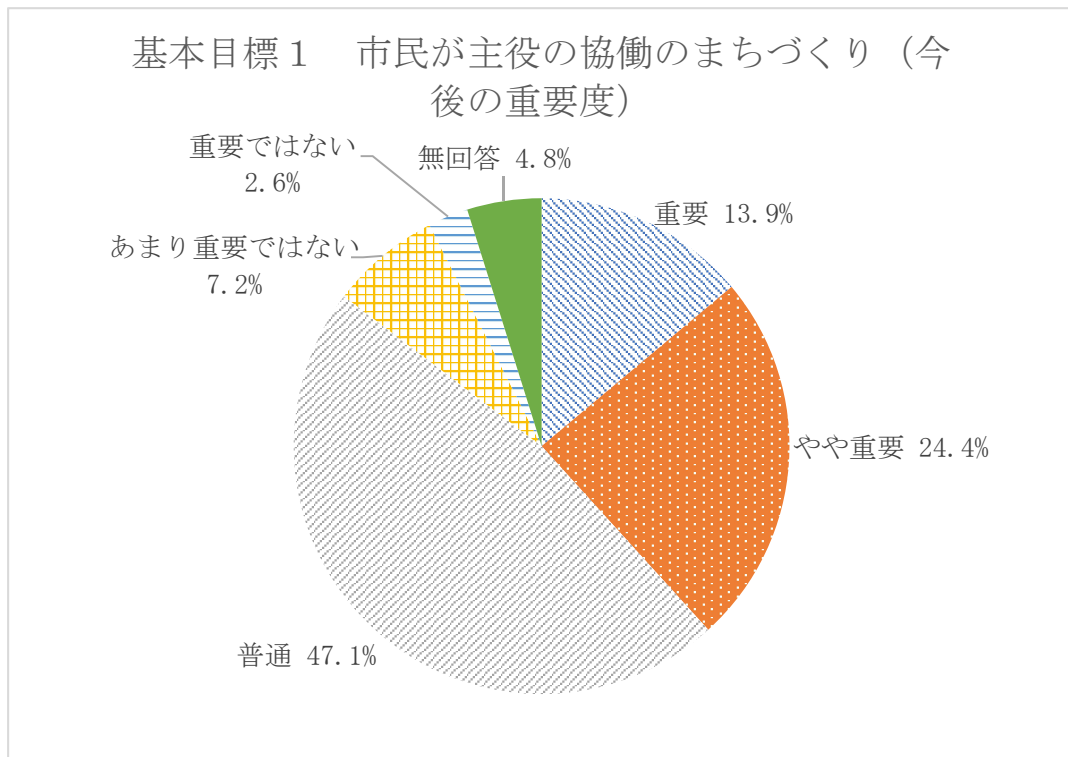
●“重要度が高い”目標は、「基本目標3 子育てを支援、だれもが健康で安心して暮らせるまちづくり」

●“重要度が低い”目標は、「基本目標4 地域の個性と魅力が輝くにぎわいと活力のあるまちづくり」

総合計画で定めている6つの基本目標に基づき、満足度と同様に各施策の今後の「重要度」についてたずねたところ、「重要」、「やや重要」を合計した“重要度が高い”の割合は、「基本目標3 子育てを支援、だれもが健康で安心して暮らせるまちづくり」が53.7%で最も高く、以下「基本目標6 生活基盤の充実した安全で快適に暮らせるまちづくり」(53.2%)、「基本目標2 自然と調和した環境にやさしいまちづくり」(50.2%)が上位となっています。

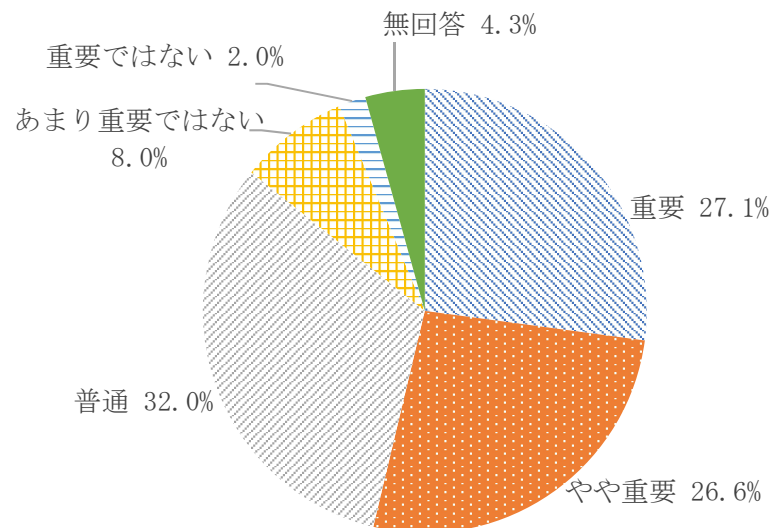
一方、「重要ではない」、「あまり重要ではない」を合計した“重要度が低い”の割合は、「基本目標4 地域の個性と魅力が輝くにぎわいと活力のあるまちづくり」が10.6%で最も高く、以下「基本目標3 子育てを支援、だれもが健康で安心して暮らせるまちづくり」(10.0%)、「基本目標1 市民が主役の協働のまちづくり」(9.8%)が上位となっています。

【今後の重要度：基本目標別】

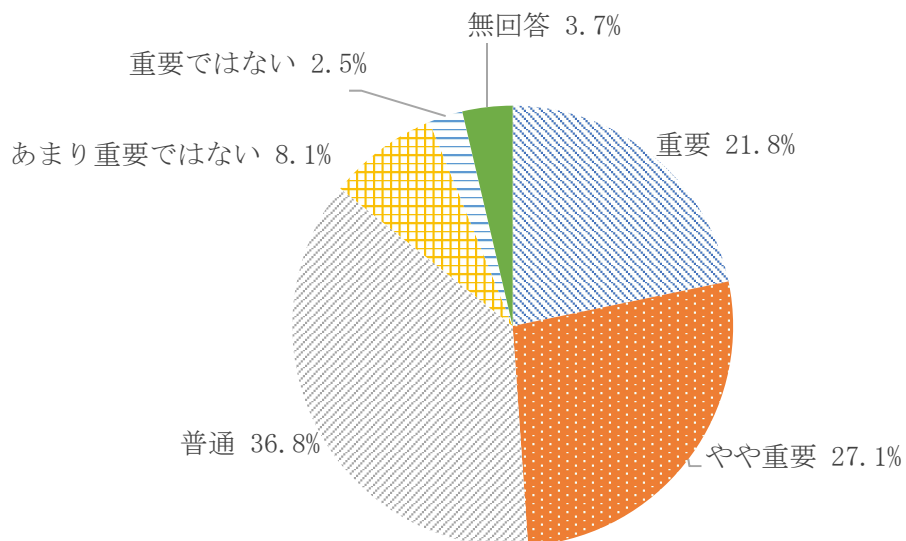




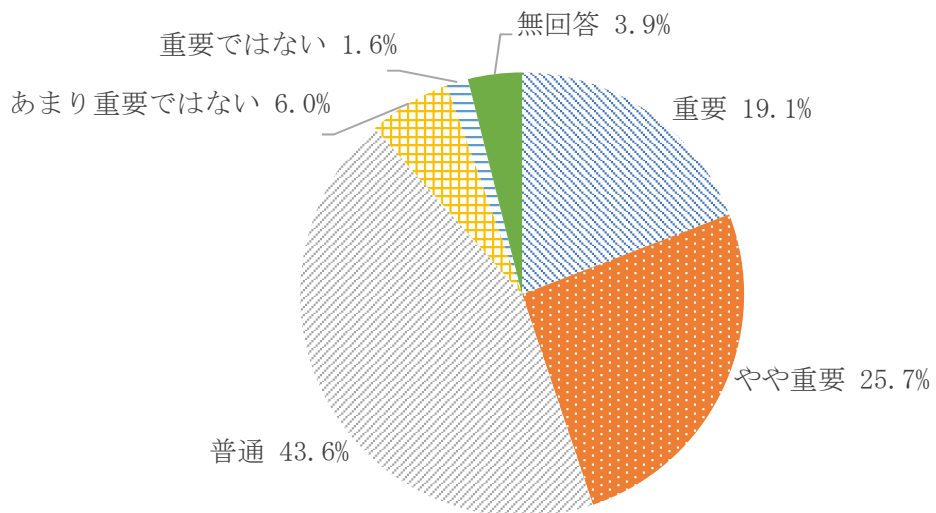
基本目標3 子育てを支え、だれもが健康で安心して暮らせる  
まちづくり（今後の重要度）



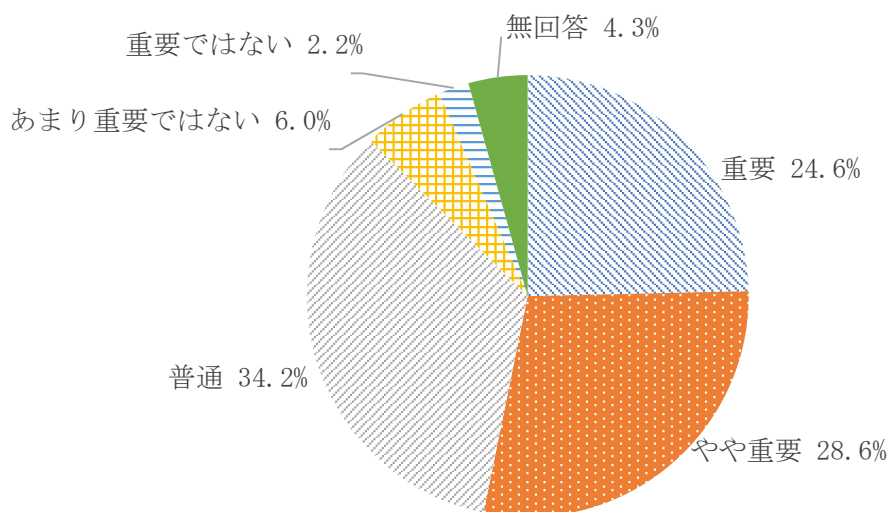
基本目標4 地域の個性と魅力が輝くにぎわいと活力のあるま  
ちづくり（今後の重要度）



基本目標5 歴史と文化を未来へつなぐ、心豊かな人を育むまちづくり（現状の満足度）



基本目標6 生活基盤の充実した安全で快適に暮らせるまちづくり（今後の重要度）



## 4 各施策の評価について

問3 伊那市の取組みについて、下記1から49までの施策の中から現状の満足度の高い項目と今後の重要性が高い項目のそれぞれ上位5つを選んで番号を記入してください。

○地域の未来を協創する協働のまちづくり

1. 協働・市民参画 2. 地域自治・コミュニティ 3. 人権尊重社会  
4. 男女共同参画社会 5. 行政運営 6. 財政基盤

○自然と調和した環境にやさしいまちづくり

7. 自然 8. 景観形成 9. 地域環境 10. 低炭素社会

○子育てを支え、だれもが健康で安心して暮らせるまちづくり

11. 子ども・子育て 12. 保育 13. 健康 14. 医療 15. 地域福祉  
16. 障害者福祉 17. 生活援護 18. 高齢者福祉

○地域の個性と魅力が輝くにぎわいと活力のあるまちづくり

19. 農業 20. 林業 21. 工業 22. 企業誘致・企業留置 23. 商業・サービス業  
24. 新産業技術 25. 就労・雇用 26. 起業・創業支援 27. 観光  
28. 情報発信・シティプロモーション 29. 移住・定住・交流  
30. 広域連携(広域行政の推進)

○歴史と文化を未来へつなぐ、心豊かな人を育むまちづくり

31. 学校教育 32. 教育連携(高校・大学との連携) 33. 心の教育  
34. 青少年健全育成・家庭教育 35. 生涯学習 36. 文化・芸術 37. スポーツ

○生活基盤の充実した安全で快適に暮らせるまちづくり

38. 住宅・住環境 39. 環境衛生(ごみ、リサイクル) 40. 上下水道  
41. 都市計画 42. 地域幹線道路網 43. 公共交通 44. 防災・減災 45. 消防  
46. 交通安全 47. 防犯・平和 48. 消費生活

○その他

49. その他

## (1)現状の満足度

### 【全体の傾向】

●最も“満足度”が高い項目は「自然」

●最も“満足度”が低い項目は「心の教育」

総合計画の施策体系に基づき、各施策の状況を「満足度」として全48項目についてたずねたところ、“満足度”の獲得点数は、「自然」が1,114点で最も高く、以下「環境衛生（ごみ、リサイクル）」（706点）、「子ども・子育て」（508点）、「医療」（367点）、「上下水道」（317点）が上位となっています。

一方、“満足度”の獲得点数が低い項目は、「心の教育」が9点で最も低く、以下「起業・創業支援」（17点）、「青少年健全育成・家庭教育」（28点）、「広域連携（広域行政の推進）」（39点）、「教育連携（高校・大学との連携）」（42点）が下位となっています。

【集計結果：現状の満足度ランキング】

1	自然	1,114点	25	財政基盤	132点
2	環境衛生 (ごみ、リサイクル)	706点	26	地域幹線道路網	131点
3	子ども・子育て	508点	27	防災・減災	127点
4	医療	367点	28	スポーツ	124点
5	上下水道	317点	29	交通安全	123点
6	学校教育	316点	30	就労・雇用	121点
7	地域自治・コミュニティ	308点	31	人権尊重社会	118点
8	健康	304点	32	生活援護	102点
9	地域環境	303点	33	公共交通	94点
10	高齢者福祉	269点	34	障害者福祉	90点
11	景観形成	254点		消防	
12	移住・定住・交流	252点	36	新産業技術	87点
13	保育	241点	37	男女共同参画社会	86点
14	防犯・平和	239点	38	商業・サービス業	54点
15	住宅・住環境	230点		消費生活	
16	情報発信・ シティプロモーション	212点	40	低炭素社会	52点
17	行政運営	199点	41	林業	49点
18	文化・芸術	175点	42	都市計画	45点
19	観光	173点	43	工業	43点
20	地域福祉	163点	44	教育連携(高校・大学との 連携)	42点
21	生涯学習	162点	45	広域連携(広域行政の推 進)	39点
22	農業	154点	46	青少年健全育成・家庭教 育	28点
23	協働・市民参画	137点	47	起業・創業支援	17点
24	企業誘致・企業留置	135点	48	心の教育	9点

※1位⇒5点 2位⇒4点 3位⇒3点 4位⇒2点 5位⇒1点として点数化し集計

### 【その他】

ほかの市町村に比べて満足度があまりない。  
やや不満な項目が多いため、満足度が高いものを選べなかった。  
満足がわからない  
意味がわからないことばかり。  
よくわからない  
行政手続きの押印廃止  
市民に市の取組みが見えていないので、答えられません。  
いなほっと券、ぐるっとタクシー

### 【年代別の傾向】

- 「自然」は各世代共通で満足度が最も高い。
- 50代以上では「環境衛生(ごみ、リサイクル)」の満足度が「自然」に次いで高い。
- 「子ども・子育て」は多くの世代で満足度が高い。

世代によって満足度の分布に特徴がみられますが、全体の特徴として、「自然」は全世代で満足度が最も高く、「環境衛生(ごみ、リサイクル)」は、50～80代に共通して優先度の高い項目となっています。

また、「子ども・子育て」は多くの世代で満足度が高い結果となっていますが、特に30～50代で高くなっています。さらに、40代において「学校教育」の満足度が高いことも含め、子育てや教育を行う世代において高くなる傾向にあります。

年代ごとの特徴としては、10代は「学校教育」、20代は「防犯・平和」、30代は「保育」、40代は「移住・定住・交流」、50代は「医療」、60代は「地域環境」、70代は「健康」、80代は「高齢者福祉」の満足度が他の世代と比べ高いことがあげられ、自身に身近な施策に対する満足度が高い傾向にあります。

## 【年代別満足度ランキング】

10代

20代

1	自然	65点	1	自然	128点
2	学校教育	34点	2	防犯・平和	42点
3	景観形成	22点	3	景観形成	38点
4	子ども・子育て	20点	4	観光	38点
5	住宅・住環境	20点	5	地域自治・コミュニティ	30点

30代

40代

1	自然	123点	1	自然	172点
2	子ども・子育て	121点	2	環境衛生（ごみ、リサイクル）	90点
3	保育	92点	3	子ども・子育て	86点
4	医療	75点	4	学校教育	61点
5	環境衛生（ごみ、リサイクル）	62点	5	移住・定住・交流	45点

50代

60代

1	自然	196点	1	自然	175点
2	環境衛生（ごみ、リサイクル）	165点	2	環境衛生（ごみ、リサイクル）	143点
3	子ども・子育て	93点	3	子ども・子育て	93点
4	医療	68点	4	地域環境	78点
5	移住・定住・交流	68点	5	健康	69点

70代

80代

1	自然	181点	1	自然	74点
2	環境衛生（ごみ、リサイクル）	144点	2	環境衛生（ごみ、リサイクル）	63点
3	健康	83点	3	地域環境	40点
4	地域自治・コミュニティ	82点	4	高齢者福祉	40点
5	高齢者福祉	78点	5	上下水道	36点

## (2) 今後の重要性

### 【全体の傾向】

●最も“重要性”が高い項目は「子ども・子育て」

●最も“重要性”が低い項目は「工業」

総合計画の施策体系に基づき、満足度と同様に各施策の今後の「重要性」についてたずねたところ、“重要性”の獲得点数は、「子ども・子育て」が1,115点で最も高く、以下「高齢者福祉」(811点)、「医療」(549点)、「就労・雇用」(512点)、「農業」(392点)が上位となっています。

一方、“重要性”の獲得点数が低い項目は、「工業」が15点で最も低く、以下「消防」(28点)、「広域連携(広域行政の推進)」(30点)、「スポーツ」(42点)、「協働・市民参画」(44点)が上位となっています。



【集計結果：今後の重要性ランキング】

1	子ども・子育て	1,115点	25	消費生活	176点
2	高齢者福祉	811点	26	行政運営	165点
3	医療	549点	27	低炭素社会	160点
4	就労・雇用	512点	28	心の教育	157点
5	農業	392点	29	上下水道	125点
6	公共交通	368点	30	林業	121点
7	学校教育	357点	31	商業・サービス業	118点
8	財政基盤	339点	32	防犯・平和	103点
9	環境衛生（ごみ、リサイクル）	320点	33	景観形成	102点
10	地域福祉	270点	34	起業・創業支援	101点
	防災・減災		35	教育連携（高校・大学との連携）	97点
12	保育	250点	36	新産業技術	91点
13	企業誘致・企業留置	249点	37	情報発信・シティプロモーション	89点
14	自然	241点	38	男女共同参画社会	87点
15	観光	212点	39	交通安全	86点
16	住宅・住環境	210点	40	人権尊重社会	83点
17	障害者福祉	205点	41	青少年健全育成・家庭教育	80点
18	移住・定住・交流	204点	42	文化・芸術	70点
19	地域自治・コミュニティ	200点	43	生涯学習	52点
20	健康	199点	44	協働・市民参画	44点
21	都市計画	198点	45	スポーツ	42点
22	地域幹線道路網	195点	46	広域連携（広域行政の推進）	30点
23	生活援護	192点	47	消防	28点
24	地域環境	177点	48	工業	15点

※1位⇒5点 2位⇒4点 3位⇒3点 4位⇒2点 5位⇒1点として点数化し集計

### 【その他】

アレチウリ退治

図書館の拡充

どれも重要だと思う

税金

療養者を介護している人への支援

小学校保育園の統合・集約

社会インフラ等の維持管理

Jアラートになった時の為の地域の説明や訓練

### 【年代別の傾向】

- 10代は、「学校教育」の重要性が最も高い。
- 20～40代は、「子ども・子育て」の重要性が最も高い。
- 50～80代は、「高齢者福祉」の重要性が最も高い。

10代は、「学校教育」、20～40代は、「子ども・子育て」、50～80代は、「高齢者福祉」の重要性が最も高く、各世代とも身近な課題を優先する傾向にあり、世代によって優先度の分布に特徴がみられますが、「子ども・子育て」は、全世代において重要性が2位以上となっており、優先度の高い項目となっています。

20～50代の勤労世代では、「就労・雇用」が上位にランクインしており優先度が高い傾向にあります。また、多くの年代において、「医療」の重要性が高くなっています。

## 【年代別重要性ランキング】

10代

20代

1	学校教育	41点	1	子ども・子育て	139点
2	子ども・子育て	34点	2	就労・雇用	60点
3	高齢者福祉	33点	3	保育	56点
4	公共交通	21点	4	医療	51点
5	自然	20点	5	財政基盤	40点

30代

40代

1	子ども・子育て	282点	1	子ども・子育て	203点
2	保育	104点	2	高齢者福祉	95点
3	学校教育	90点	3	医療	94点
4	就労・雇用	79点	4	就労・雇用	68点
5	高齢者福祉	64点	5	学校教育	61点

50代

60代

1	高齢者福祉	182点	1	高齢者福祉	196点
2	子ども・子育て	167点	2	子ども・子育て	151点
3	就労・雇用	88点	3	医療	129点
4	医療	79点	4	農業	97点
5	環境衛生（ごみ、リサイクル）	76点	5	就労・雇用	91点

70代

80代

1	高齢者福祉	159点	1	高齢者福祉	56点
2	子ども・子育て	111点	2	医療	44点
3	農業	99点	3	財政基盤	37点
4	医療	73点	4	就労・雇用	36点
5	公共交通	72点	5	企業誘致・企業留置	35点

### (3) 分布図による分析

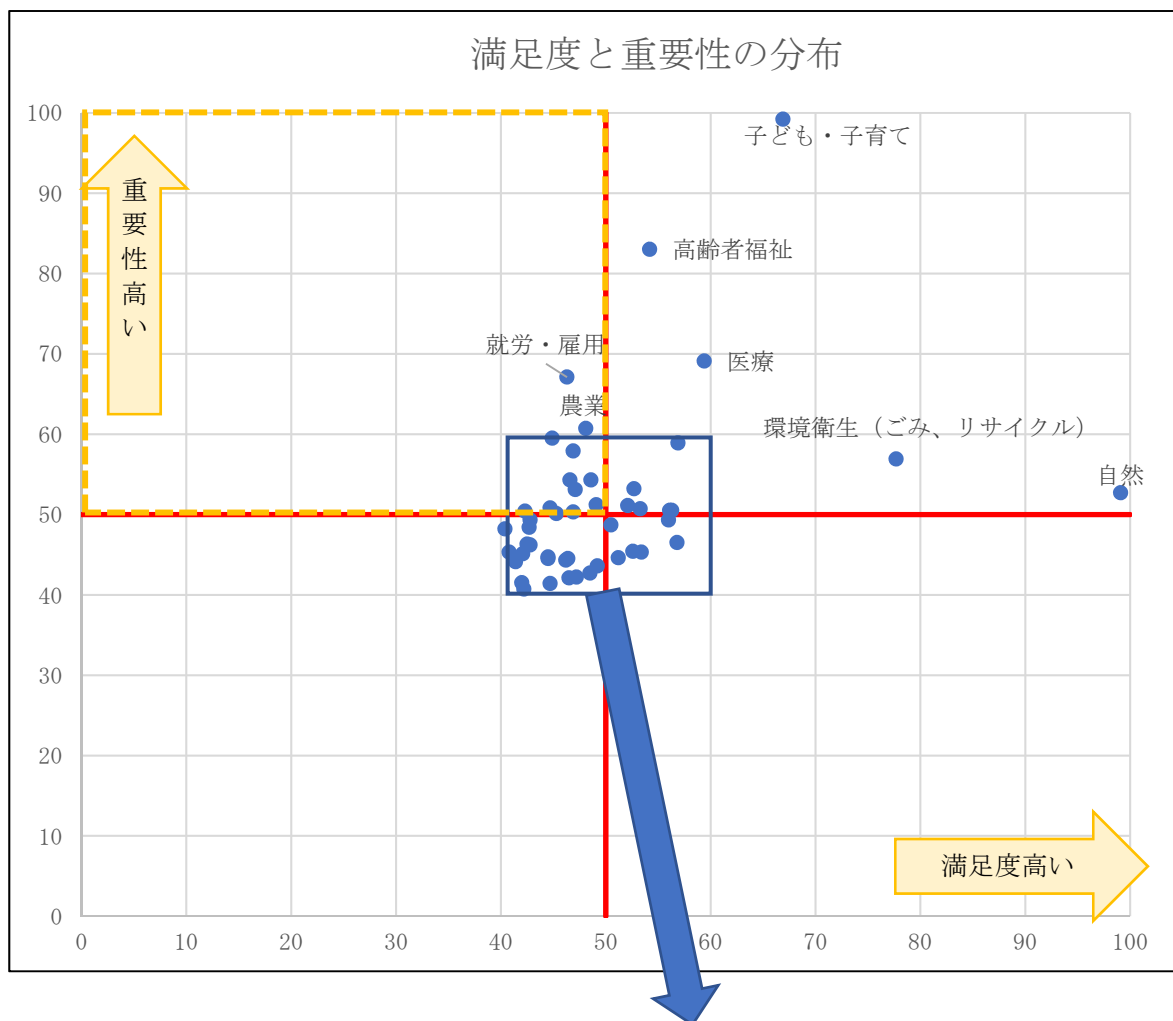
#### 【全体の傾向】

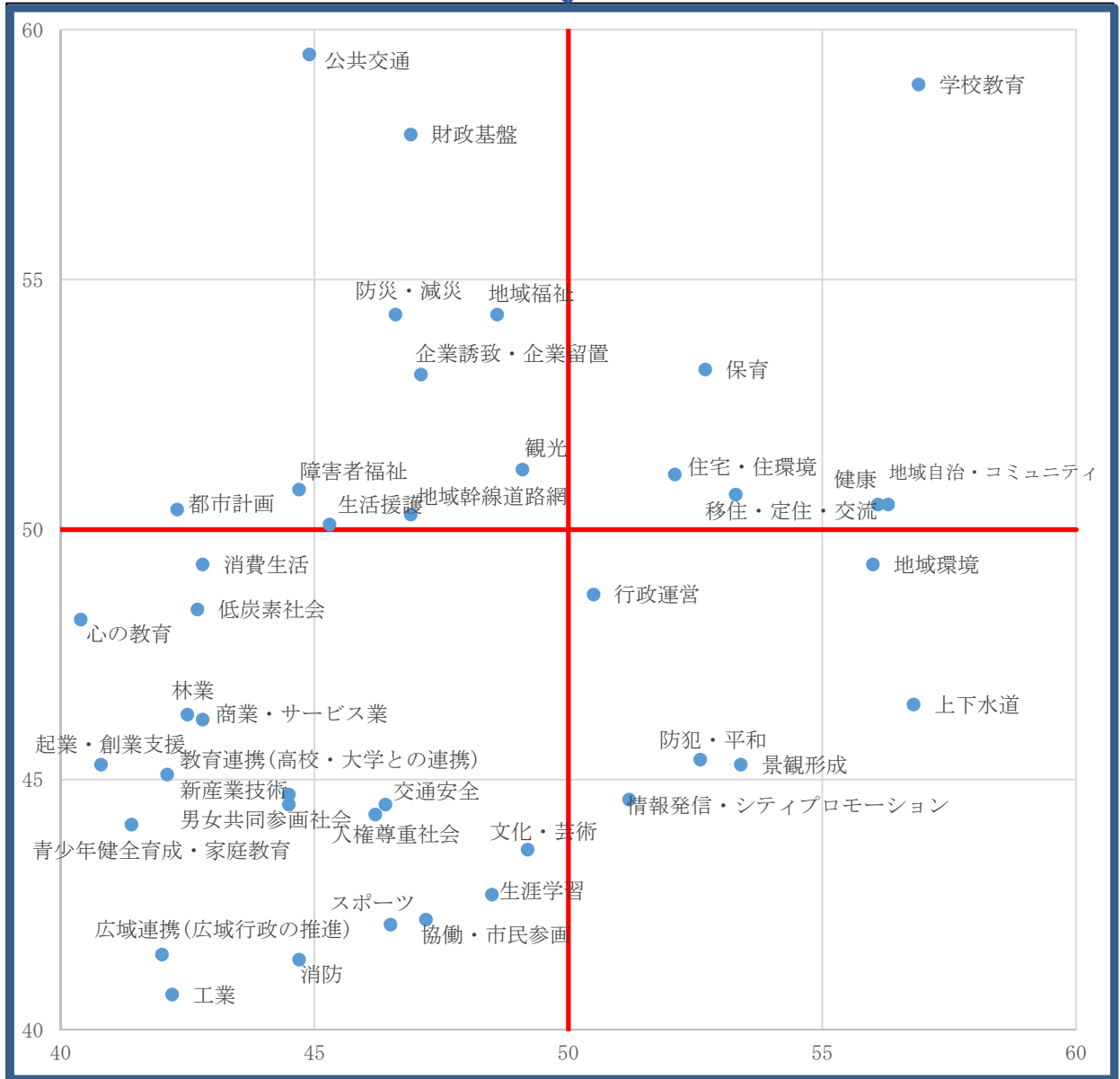
●“優先度が高い”項目は、「就労・雇用」、「農業」、「公共交通」、「財政基盤」、「防災・減災」、「地域福祉」、「企業誘致・企業留置」、「観光」、「障害者福祉」、「地域幹線道路網」、「都市計画」、「生活援護」

各施策の満足度、重要性の各点数を偏差値に換算し、満足度と重要性をそれぞれ横軸、縦軸に設定し、分布図を作成しました。また、グラフ上の偏差値 50 の位置にラインを引くと、4つのエリアに分類されます。ここでは「満足度が低く、重要性が高い」施策（満足度の偏差値 50 未満かつ重要性の偏差値 50 以上）を「優先度が高い項目」と定義します。

【重要性が高く、満足度が低い施策（満足度の偏差値 50 未満かつ重要性の偏差値 50 以上）】

- ・就労・雇用      ・農業      ・公共交通      ・財政基盤      ・防災・減災
- ・地域福祉      ・企業誘致・企業留置      ・観光      ・障害者福祉
- ・地域幹線道路網      ・都市計画      ・生活援護





## Ⅱ 中学生アンケート調査結果

# 1 調査概要

## (1) 調査目的

次代を担う中学生の意見をこれからのまちづくり施策へ反映するとともに、アンケートを通じて、伊那市の良いところを再認識してもらうことにより「自分のふるさと」としての誇りや愛着の気持ちを醸成し、「定住の地」としての意識を育むため実施したものです。

## (2) 調査方法等

アンケートの対象者	市内中学校の2学年の生徒
人 数	618人（令和4年5月1日現在）
抽 出 母 体	
抽 出 法	
調 査 方 法	各学校を通じての配布、郵送による回収
調 査 時 期	令和4年10月17日～11月4日

## (3) 配布数及び回収結果

配 布 数	618
有 効 回 答 数	123
有 効 回 答 率	19.9 %

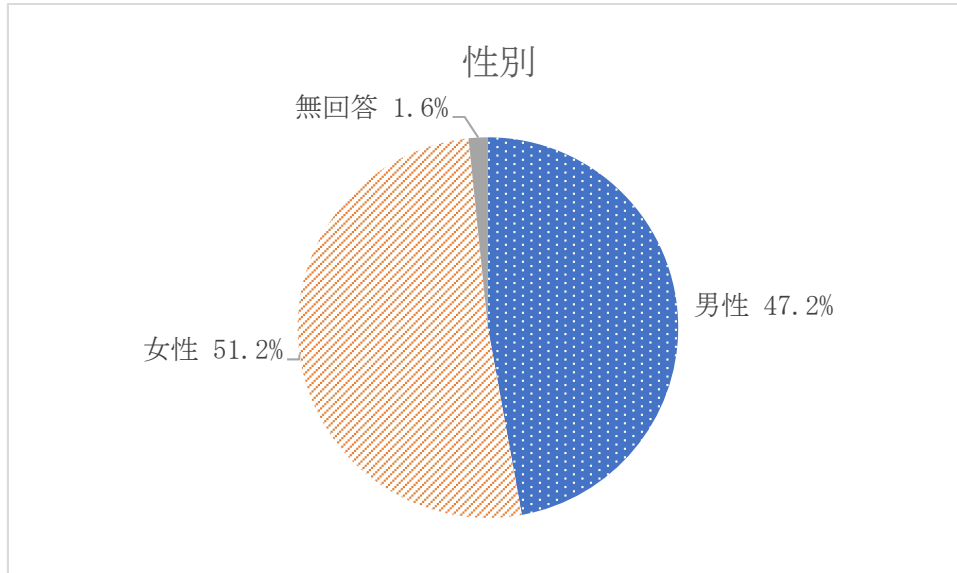
## (4) 本調査報告書の留意点

- ①比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのため、百分率の合計が100%にならないことがあります。
- ②質問文の中に、複数回答が可能な質問がありますが、その場合、回答の合計は調査数を上回ることがあります。
- ③図中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合があります。

## 2 回答者の属性

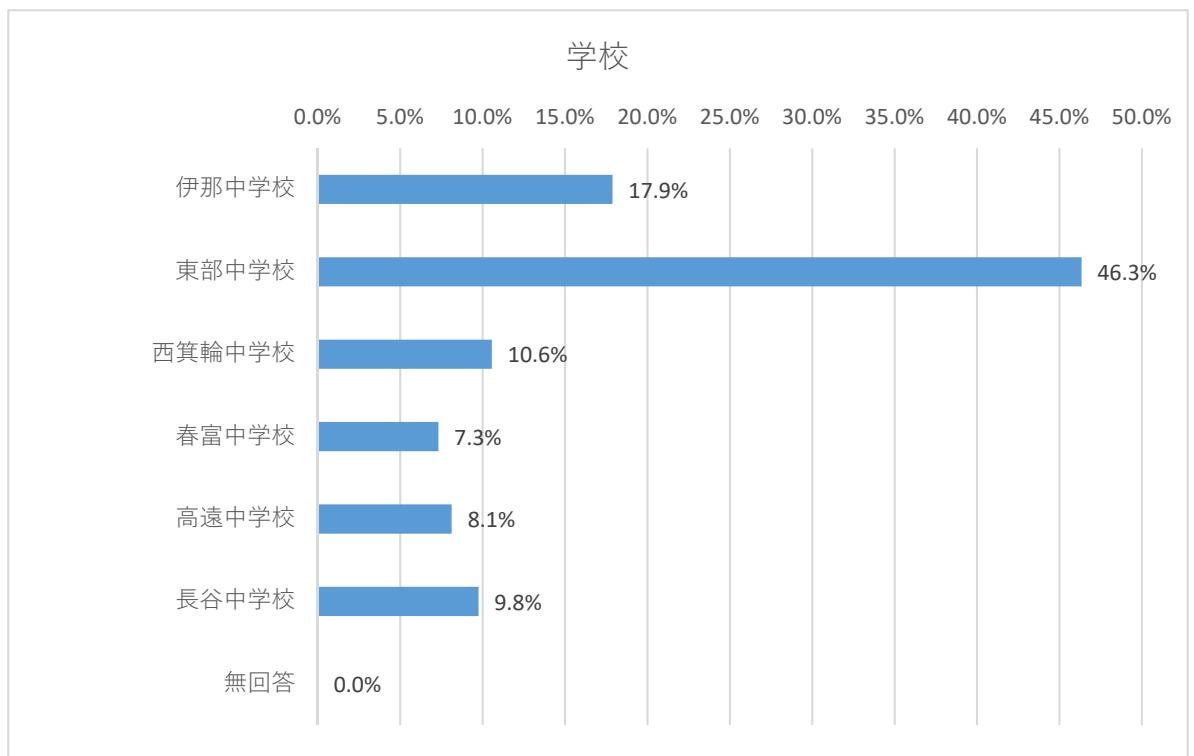
### (1) 性別

回答者の性別は、「男性」が 47.2%、「女性」が 51.2%となっています。



### (2) 学校

生徒数の割合は、下記のとおりです。





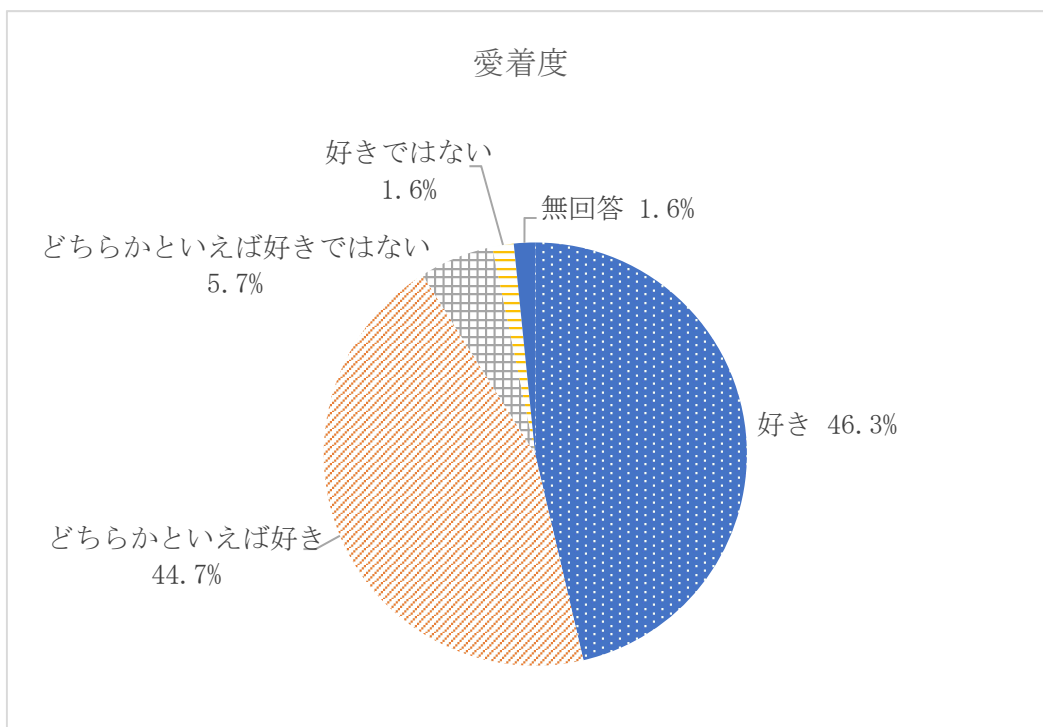
### 3 愛着度について

問1 あなたは、伊那市についてどう思いますか。あなたの考えに近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

【全体の傾向】

#### ●全体の91%が“愛着がある”と回答

伊那市の愛着度をたずねたところ、「好き」(46.3%)と「どちらかといえば好き」(44.7%)を合わせた“愛着度の高さ”は91.0%となっています。一方、「どちらかといえば好きではない」(5.7%)と「好きではない」(1.6%)の合計は7.3%で、“愛着がある”割合を大きく下回っています。



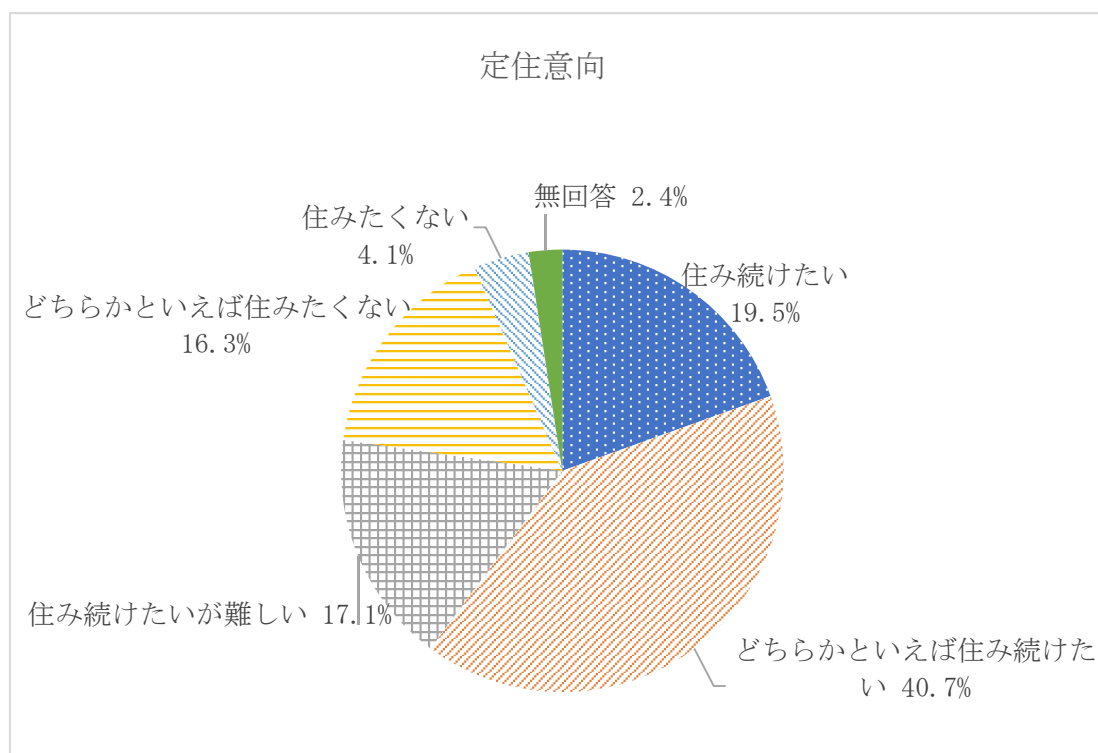
## 4 定住意向について

問2 あなたは、将来も伊那市に住みたいですか。あなたの考えに近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

【全体の傾向】

### ●全体の約60%が“定住意向がある”と回答

今後の定住意向をたずねたところ、「住み続けたい」（19.5%）と「どちらかといえば住み続けたい」（40.7%）を合わせた“定住希望がある”人は60.2%となっています。一方、「住みたくない」（4.1%）と「どちらかといえば住みたくない」（16.3%）の合計は20.4%で、“定住希望がある”割合を下回っています。



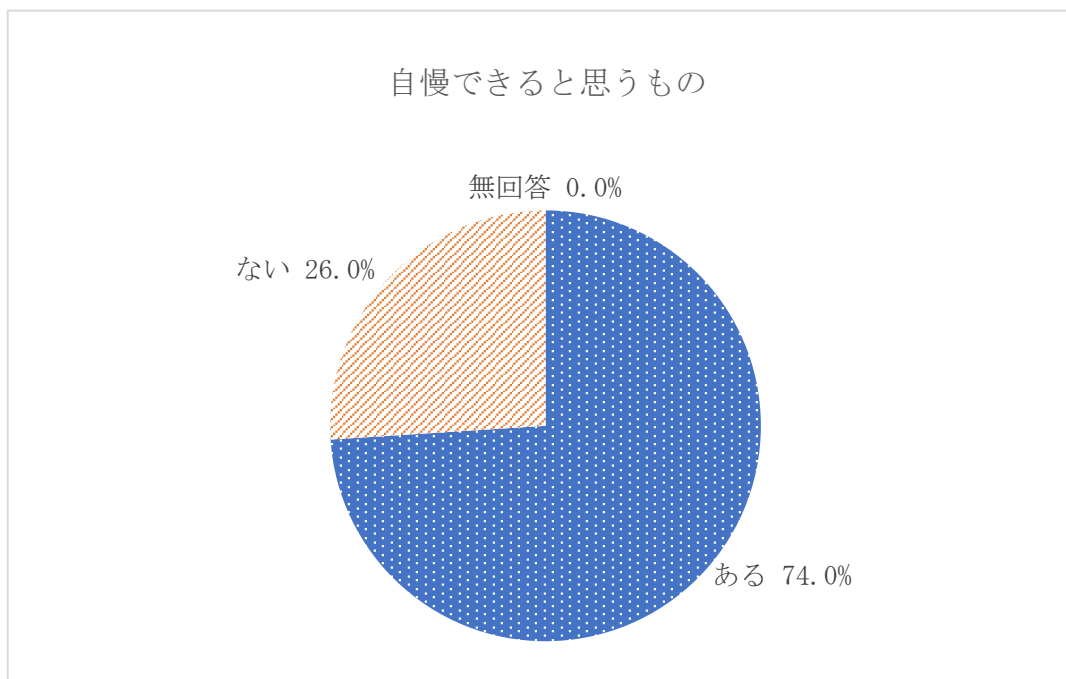
## 5 伊那市の自慢できるものについて

問3 伊那市であなたが自慢できると思うものはありますか。物でも人でも場所でも何でも構いません。どちらかに○をつけてください。

【全体の傾向】

### ●全体の74%が“自慢できるものがある”と回答

伊那市で自慢できるものがあるかをたずねたところ、「ある」は74.0%となっており、「ない」の26.0%を大きく上回っています。



## 6 今後のまちづくりの方向性について

問4 あなたは、伊那市が将来どのようなまちになることを期待しますか。次の中から2つ選んで○をつけてください。

【全体の傾向】

### ●「自然環境の保全」、「防災・安全」への関心が高い。

将来のまちづくりの目指すべき方向性についてたずねたところ、「環境にやさしく山や川など美しい自然が守られているまち」(22.4%)、「犯罪がなく、災害に強い安全なまち」(11.4%)、の2項目へ関心が集中しています。

中学生にとって身近な課題であることが影響し、「自然環境の保全」と「防災・安全」に回答が集中したと推察されます。また、「多様性を認め合い、だれもがいきいきと暮らせるまち」が上位となり、時代を反映した結果となっています。

まちづくりの方向性

